

令和元年2定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和元年(2019年)7月3日

質問者 日本共産党 真下 紀子 議員

担当部課 総合政策部政策局参事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>五 公有施設等の売却等について (一) 夕張市所有財産の資産評価と売却経過等について 知事が夕張市長だった2017年2月、夕張市所有のスキー場やホテルなど観光施設を、約2億4千万円で中国系企業の「元大リアルエステート」に売却しました。 ところが、そのわずか2年後の今年3月末に15億円で香港系ファンドに転売されてしまいました。 この売却経過について、夕張市の財政再生を支援している道民に説明する責任があります。 破格の安値で売却することになった経過と理由は何か伺います。</p> <p>(二) 資産価値に対する認識等について 当時、約10億円の購入資金を用意していた香港の航空会社から、当該施設を購入したい意向が示されていましたが、本来10億円超えの資産価値があったとは考えなかったのか、どうか。 また、当時、市長だった知事は、航空会社の件を承知していたのかどうか、併せて伺います。</p> <p>(三) 転売禁止について 転売した「元大リアルエステート」の社長は、夕張市特定財産売却選考委員会で事業の継続と100億円の投資を口頭で説明していましたが、ファンドへの転売により、約束は果たされなかったこととなります。知事はこうした一連の経緯を説明すべきではありませんか。 また、市議会でも選考委員から議論のあった「転売禁止規定」をあえて知事が設けなかった理由について、つまびらかに説明してください。</p> <p>【再質問】 五 公有施設等の売却等について (一) 市有財産の売却益の妥当性について 幾度となく「夕張市長の経験をいかす」と繰り返す知事ですが、先程、道財政に関する私の質問に、「道の遊休資産の売却による歳入確保をする」と答えた知事には、夕張市長として、市が所有する財産を売却した際の取り扱いや、売却益が妥当だったのか等、道政に関わる極めて重要な問題として、説明責任があります。 2017年1月10日の第8回夕張市特定財産売却選考委員会では8時間も議論した上、優先交渉権者が「元大リアルエステート」に決定しました。当時の鈴木市長は議論の経過をどのように報告を受けたのか、お聞きします。</p>	<p>【知事】 夕張市の観光施設についてであります。私が夕張市長の時に市の財産であったホテルなど4つの観光施設については、夕張市にとっての雇用の受け皿であり、その運営状況は地域経済にも大きな影響を及ぼすことから、売却に当たっては、雇用の継続などに積極的な事業者を優先するとの考え方のもと、市が設置した委員会において選考された事業者との契約を市議会に提案し、相手方として議決をいただいたものであります。</p> <p>【知事】 施設売却の経過についてであります。ご指摘のあった企業の意向については、企業名、内容ともに承知をしておりません。</p> <p>【知事】 売却の経過などについてであります。市所有財産の処分の議決を得るに当たっては、市議会において、選考委員会での事業者選考に関する考え方や経緯などを報告しております。 また、転売に関する取扱いについては、選考委員会における事業者からの説明などを総合的に検討の上、決定したものであります。</p> <p>【知事】 夕張市の選考委員会の議論についてであります。市が設置した外部の有識者等で構成をされる委員会において、施設の継続運営や雇用の確保、地域経済の活性化などの観点から総合的に検討の上、優先交渉権者が選考されたことについて事務局から報告を受けているところであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) 異例の再採決について この選考委員会では不可解なことがおきています。会議録では、2年から3年間は指定管理者で様子を見るべきだ、売却先としては不安だなどの意見が次々と言われ、「売却契約の優先権を与えるべきではない」という委員が過半数となり、「元大」に売却しないという採決結果が出ました。ところが、道からの出向者が参加する事務局が、優先交渉権者の選定が課せられていると説得し、異例の再採決で結果が逆転した経緯があります。それでも委員の不安が払しょくされず、賛成多数での採決でした。全会一致ではありません。 市長の強い売却への意気込みがあったと聞きますが、なぜ選考委員会の決定を尊重せず、売却を急いだのか、お答え願います。</p> <p>(三) 情報の連携不足について 売却にあたり、香港の航空会社は担当職員に面会したと聞いていますが、知事はまったく承知していないという答弁でした。この重要情報を鈴木市長に知らせなかったなら、市役所内の連携不足、市長の責任が問われるのではありませんか。いかがですか。</p> <p>(四) 市役所財産の転売禁止規定について 選考委員会で「元大」は、座長から転売禁止規定について問われ、拒否しています。 一方、知事は、転売禁止規定について市議会で問われ、「施設運営の継続、雇用の確保、地域経済の活性化を長年にわたって図ってもらえると期待して」と答え、市長として期待するだけで、転売禁止規定をあえて文書として謳いませんでした。 知事は、なぜ口約束で済ませたのか。なぜ契約書に転売禁止規定を盛り込まなかったのか、理由を伺うとともに、知事が期待した施設運営の継続、雇用の確保、地域経済の活性化は、転売によって、夕張市として、確認できなくなったと考えますが、見解を伺います。</p>	<p>【知事】 夕張市の施設の売却についてであります。施設の売却に当たっては、市が設置した委員会における優先交渉権者の選考結果を尊重し、選考された事業者への財産処分について、市議会に提案して議決をいただいたものであります。</p> <p>【知事】 施設売却の経過についてであります。議員ご指摘の香港の企業の意向などについては、承知をしておりません。</p> <p>【知事】 売却した施設についてであります。市が設置した委員会で選考された事業者からは、現地法人の立ち上げ、さらには地域に根差して長年にわたり営業を継続していきたいという市の方針に沿った積極的な説明があったところであります。 現在、夕張市が売却した4つの観光施設につきましては、事業が継続されており、また、市においては、事業者に対して運営継続について働きかけを行っている」と承知をしております。</p>
<p>【再々質問】 五 公有施設等の売却等について (一) 状況確認について 事務局から売却経過について報告を受けたと知事は答弁されました。しかし、当時の鈴木市長はこの報告を受け、こう述べています。「これから、その方々のさらなる状況の確認と、今後、契約をしっかりと締結できるか否かも含めて、さらに我々の方で話を進めていただく」と述べています。道職員が事務局にいたわけですが、どのような状況確認を行い契約に至ったのか。また資産査定などは行ったのか伺います。</p>	<p>【知事】 道政運営の姿勢についてであります。市が設置した委員会で選考された事業者からは、現地法人の立ち上げ、また、地域に根差して営業を継続していきたいという市の方針に沿った説明があったところであります。 そうした説明内容については、契約書では明記をされておきませんが、現在、夕張市が売却をした4つの観光施設については、事業が継続をされており、また、市においては、事業者に対して運営継続について働きかけを行っている」と承知をしております。 また、施設の資産評価については、夕張市において事前に参考とするための査定を行っているということであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) 転売禁止規定等について 夕張市特定財産売却選考委員会の座長から、5年間の転売禁止規定について聞かれた「元大」の社長は、「売り抜けはしない、納税はする」と述べて、契約にこの規定を入れることを拒否しました。さらに市議会でも転売禁止を盛り込まなかったことについて問われた鈴木市長は、元大グループから、長年にわたり、営業を継続していきたいという話を受けたからと答弁されましたが、転売によって、市は運営の継続を事業者に働きかけることはできても、当初の基本方針の履行を確認することができなくなったのではありませんか。道有財産について、民間への売却を進めようとする知事が、このような口約束で売却を進めることは、道行政においてあってはなりません。公有財産の適正な売買において、何が必要と知事はお考えになっているのか、転売禁止規定や用途指定についても知事のお考えを伺います。</p> <p>(三) 夕張市長としての経験について 夕張市から観光施設を買い入れた「元大」の資本金は100万円です。夕張市特定財産売却選考委員会に投資計画も出さず、社長が提案書A4版の紙一枚と、100億円投資すると口頭でプレゼンただけです。ファンドへの転売も示唆し、委員から「売却の内容が途中からM&Aという話があった」、「正直、納得できなかった」という発言や、信頼度に不安を寄せる声、長期間大丈夫だろうかと不安の表明が続出しました。しかし、当時の鈴木市長はそれを押し切ったのですね。結果、まるで10億円以上値引きしたかのような売却となり、転売された結果、市の基本方針に沿った雇用の継続や地域経済の活性化を夕張市自身が確かめるすべを失っているではないですか。いかがですか。夕張市に賠償しなければならない、謝罪しなければならない問題ではないかと指摘する声も出ていますが、住民に損害を与えるようなことがあってはなりません。</p> <p>夕張の経験を、こうしたことで発揮されてはかないません。知事は、道においても同様な売却を行うのか、見直すべきところは見直すのか、お考えを伺います。</p> <p>【特別発言】 議長のお許しをいただき、特別発言をいたします。 知事は、全国唯一の財政再生団体である夕張市の市長として前進してきた政治家であることを強調されました。しかし、夕張市は再生半ばであり、市長時代の成果をどう活かすのかも、また、市長時代のことについての説明責任を果たしたとも言えないと思います。 前例にとらわれない新たな発想と行動が必要とも述べましたが、政治姿勢は前知事の踏襲にとどまり、最大のピンチだとする人口減少対策・少子化対策でも、全国で抜きん出ようとする意欲も感じられませんでした。 それどころか、夕張市長だった鈴木知事は、再生団体になるほど投資を重ねた夕張市の観光施設を安値で売</p>	<p>【知事】 道有財産の売却についてであります。道有財産の売り払いに当たっては、一般競争入札を原則としており、物件の状況などを踏まえ、所有権の移転を制限するなどの条件を付しているところでもあります。道有財産の有効活用に当たっては、関係する規定に基づき、適切に対応して参る考えであります。</p> <p>【知事】 私の政治姿勢についてであります。今後の道政運営に当たっては、活かすところは活かし、見直しが必要であれば大胆に転換をして、将来にわたって持続的に発展する北海道づくりに取り組んで参ります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>り払い、口約束によって転売されてしまい、本来夕張市の利益となる目的を失う結果となったのではありませんか。</p> <p>売却して結果が良かったねと言ってもらえるかは、我々の取組にかかってくる、これは、夕張市長時代の知事の言葉です。知事は選考委員会委員に向かって、こう胸を張ったわけですが、売却結果を本当に喜ばしい結果だと胸を張れるのでしょうか。</p> <p>今日の議論では「元大」への売却をなぜ急いだのか、これまで以上に疑惑が深まるばかりだと言わざるを得ず、今後も注視をすると申し上げ、特別発言を終わります。</p>	